

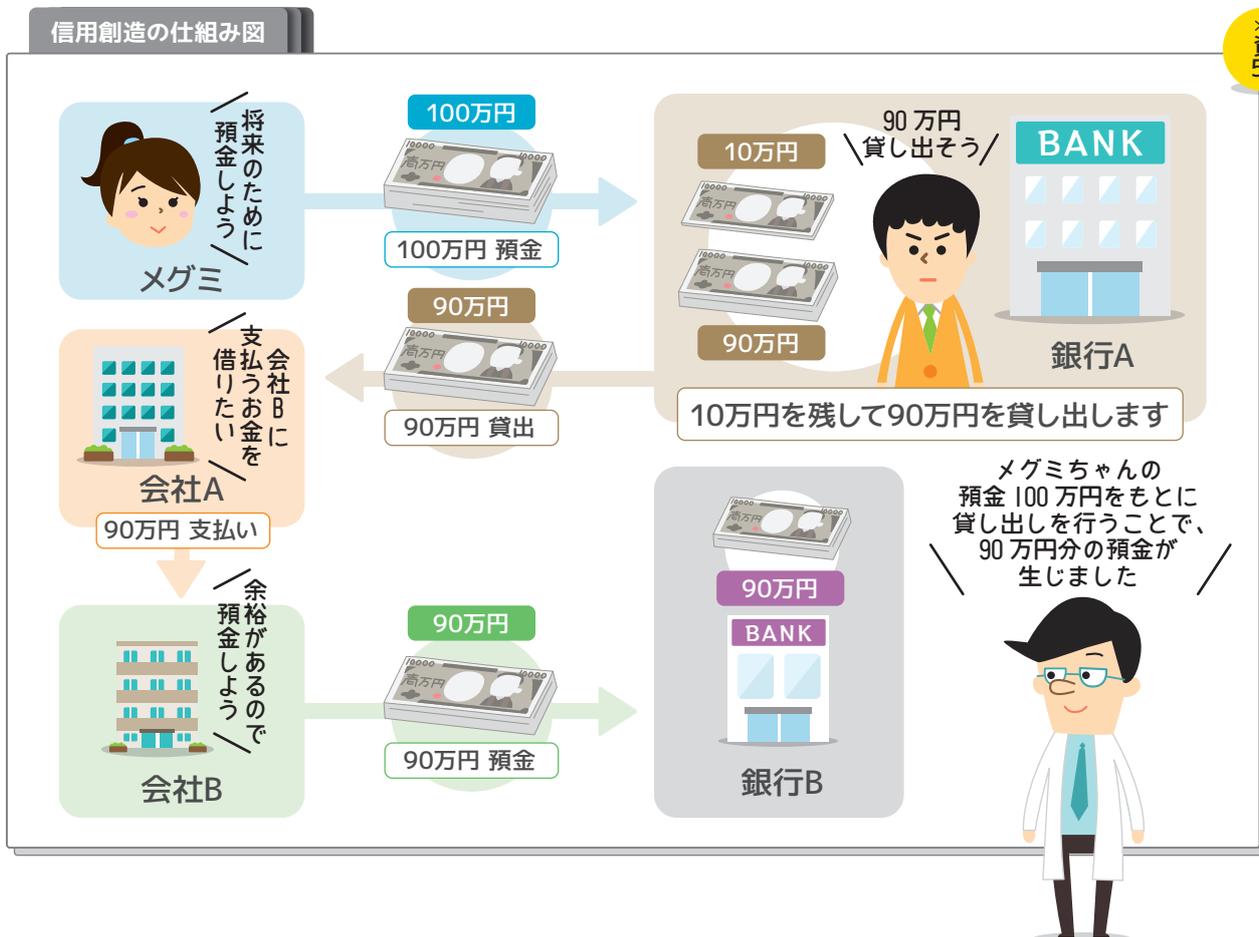
金融の役割とは？

金融とは、資金に余裕がある人から必要な人に対してお金を融通する仕組みです。たとえば銀行は、個人や企業から預かった資金を、設備投資をしたい企業に貸し出したり、住宅を購入したい個人に貸したりします。銀行などの金融機関が資金の流れに関する「交通整理」の役割を担ってくれているのです。

信用創造とは

銀行は、預かったお金のすべてを貸出に回すわけではなく、預金者も、すぐにお金を引き出す人ばかりではありません。そこで、預金の一部を支払い準備のために手元に残したうえで、残りのお金を貸出に回します。これを連鎖的に繰り返すことで、預金通貨が新しく生み出され、銀行預金は増えていきます。これを信用創造といい、銀行特有の機能の1つです。

たとえば、100万円の預金があるとして、その1割にあたる10万円を残して9割の90万円を貸出に回したとします。この90万円を借りた会社Aが会社Bに全額を支払い、会社Bが90万円を別の銀行Bに預金すると、預金額は190万円になります。信用創造の仕組みによって100万円の預金をもととなって90万円分の預金が生じるわけです。

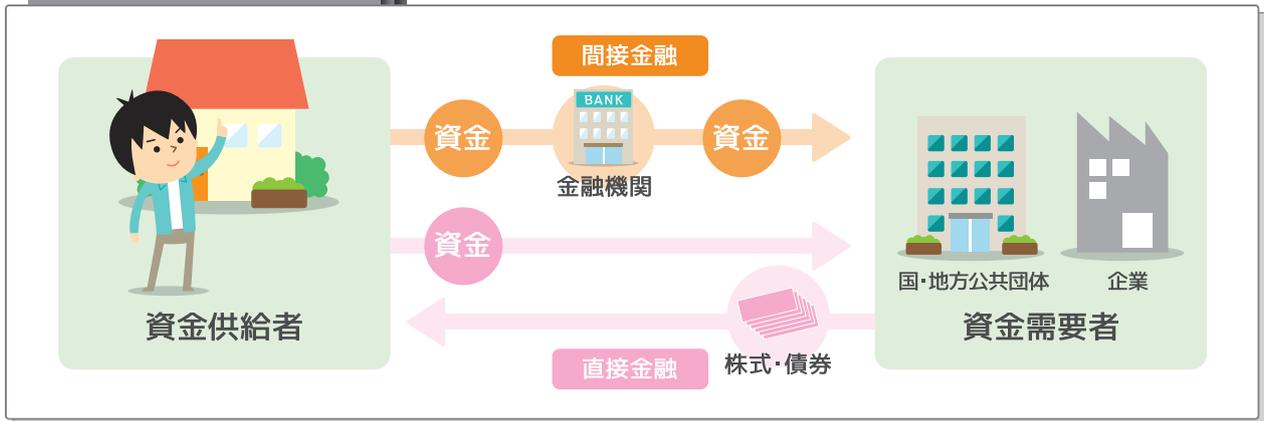


！ 間接金融と直接金融

銀行などの金融機関が資金の借り手と貸し手の間に立って、資金を仲介するシステムを間接金融といいます。資金を必要としているところに、お金がうまく回るようにするのが間接金融の役割です。

間接金融に対して、直接金融の仕組みもあります。直接金融では企業や公的機関などが株式や債券(P16参照)を発行することで、貸し手から直接、資金を受け取ります。

間接金融と直接金融の仕組み



！ 資金決済機能

銀行では、お金を支払う人と受取る人の間で、スムーズに資金をやりとりすることができるように、様々なサービスを提供しています。振込みや公共料金の口座振替、クレジット利用代金の自動引き落としがその例で、多額の現金を確認したり、運んだりする手間が省けるため便利という特徴があります。こうした銀行の機能のことを「資金決済機能」といいます。

振込みの流れ

